

第18回研究会は1993年11月27日(土)および28日(日)にかけて大阪市立大学理学部において開催された。25件の発表があり、活発な討論が行われた。途中突然の停電となり、教養部に場所をかえて行った。27日夜には懇親会が開かれ、28日午後には大学近くでお好み焼き屋で交流を深めた。

11月28日午後には総会が開催され、次の点について議論をした。

1)次期会長について

雁沢が2年の任期を終えるにあつたての新会長の選出を行った。議論の結果、今回参加できなかった九州大学の渡辺公一郎さんに新会長の打診を行うこととなった。

2)来年度第101回地質学会大会(9月下旬;札幌大会)のシンポジウムにおいて年代測定関係の分科会を開くように札幌事務局とコンタクトをとることが了承された。

研究会参加者:北田奈緒子・弘原海清・吉岡哲・金重旭・BAMGAMG WIDYOYOKO SUWARGADI・岩田志郎・山田隆二・島田千佳・長谷部徳子・田上高広・升本眞二・竹内博・壇原徹・雁沢好博・本多照幸・大平寛人・岩野英樹・松田高明・山下透・鎌田浩毅・竹内博・(NGHIEM VU KHAI)

---

次期会長について

雁沢が渡辺公一郎さんと連絡を取り合った結果、次期会長を引き受けていただける事となりました。

地質学会シンポジウムについて

札幌事務局の渡辺輝男さんと連絡したところ、一般講演と並行しながら「年代論の諸問題」のような内容で、シンポを開催する方向で、検討する事となった。また、松田高明さんが板谷徹丸さんおよび中村栄三さんと連絡をとって、一緒に行うこととなった。地質研究者に年代測定の理解を深めてもらうシンポを企画する事で調整中。